

# 【社会・小4・「わたしたちのくらしとごみ」】①

## 育成を目指す資質・能力（単元）

- （知識・技能） 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを、見学・調査したり地図などの資料で調べることを通して、理解する。
- （思・判・表） 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割について多角的に考察したり、自分にできることを判断したりして、表現する。
- （学びに向かう力等） 人々の健康や生活環境を支える事業について、そこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとする態度や、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

## ICT活用のポイント

「見方・考え方」を意図的に働かせた思考・判断・表現を生み出す、ICT活用の工夫（考えの変容、思考の整理を可視化）

### 【つかむ】

ごみの処理や分別について身近な生活の中から問いを見だし学習計画を立てる

分別されたごみは、どのように集められ、どのように処理されるのだろう

### 【追究する】

ごみ処理の仕組みや人々の協力などに着目して、資料を比較・関連付けたりしながら多角的に考察し、表現する

### 【まとめる】

これまでの学習をもとに、ごみ処理事業の役割、人々の工夫や努力についてまとめ、地域の一員として自分にも協力できることを考え、発表する

## 事例の概要

- 教師は、考察の根拠となる諸資料を精選し、あらかじめ学習支援ソフトに保存しておく。
- 児童は、課題の解決に向けて、ICT端末に保存された諸資料から個々に情報を収集し、それらをもとに、個の考えを構築する。
- 構築した個の考えをICT端末上の付箋紙に書き出す。
- 学習支援ソフトにより、端末上で3～4人のグループを構成。共有機能を使って、それぞれの付箋紙を移動させながら、比較したり関連付けたりする。
- 考えの交流を通じて得られた、新たな視点や気づきを基に自分の考えを再構築し、学習支援ソフトを通して教師に提出する。

# 【社会・小4・「わたしたちの暮らしとごみ」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】

必要な情報のみを切り取って送られた資料をじっくり読み込み、個の考えを構築



端末に送られた資料から情報収集

自分の考えを付箋紙に書き出す



「見方・考え方」を意図的に働かせた思考・判断・表現を生み出す、ICT活用の工夫

学習支援ソフトにより、視点を絞った資料送付

教師は、「ごみの処理には、どのような工夫や努力が必要なのか」という問いを導き、学習支援ソフトを使って個々に資料を送付。「処理の仕組み」や「人々の協力」に着目させて、個々で情報を収集させる。児童は、調べた情報と既存の知識を関連付けながら考えを構築。端末上の付箋紙に書き出していた。

## 【事例におけるICT活用の場面②】

共有機能を使って付箋紙を整理

大型モニターで各グループの考えの可視化→まとめ



根拠に基づく意見交流を通して、考えの変容を可視化・共有

共有機能を通じた意見交流で比較・関連・総合

学習支援ソフトによる小グループで、付箋紙に書かれた考えを交流。児童に、互いの考えを比較・関連付け・総合させることで、多角的な考察を促していた。共有機能で画面上の付箋紙を移動させながら交流させたことで、考えの変容の様子が可視化され、思考の整理を助けていた。交流を通して得られた新しい視点を加え、児童は個々で考えを再構築し、まとめの活動を行った。

## 【活用したソフトや機能】

○学習支援ソフト

・資料の送付 ・大型モニターで全体に資料を提示

○共有機能

・グループで考えを比較・関連・総合

○学習支援ソフト・カメラ機能

・個の考えを教師に送信